

完成したスコアボードの前
で生徒は満足そうな表情



力合わせて得点板設置

野球部 実践的な作業に「充実感」

大仙市の大曲工業高校主木・建築科土木コース3年生が、同校野球部グラウンドのスコアボードを更新するための発注、設置を行った。大きな柱の仕様を決めて発注し、注文、届いたボードを地面に固定するなど、普段の授業ではできない実践的な作業を体験した。

大曲工高土木コース3年生

新しいボードは鋼鉄製で支柱を含め高さ約4m、幅約6m。しいボードがクレーンでつるさ足場に上り、構材のマグネットを組み合わせて数字を表示する。古いボードは一回り小さい木製タイプ。老朽化によって倒れる恐れがあり、2年ほど前から交換が必要との声がOBを中心に上がっていた。

生徒は昨年度、使いやすいボードにするため、野球部から要望を聞き取った。大きな材質、数字の表記の仕方などさまざまな声を踏まえて仕様を決め、業者に発注。ボードの支柱を地面に埋めるため、事前にはじやスコップで設置所に穴を掘った。



生コンでスコアボードの支柱を固定する生徒

9月末に設置作業を実施。はタックローリから流れてくる生コンクリートをらし固定も軟らかく、重く驚いた。友人と一緒に作業するのは充実感がある」と話した。

一連の作業を指導した山崎昇教諭(61)は、民間の建設会社勤務を経て、2004年から同校に勤務。08年には積雪で倒壊した自転車置き場を生徒と共に建て直した。

山崎教諭は「生徒でもできる作業はなるべく経験させ、自信を持たせると同時にチームで一つの物を仕上げると味わってほしい」と狙いを語る。

コンクリートが固ま、最後となる作業10月中旬に行なった。同コースの生徒8人がボードに特殊なシートで作った二

ンクの濃塗やラインを貼り付け、完成させた。

生徒は真っさらなスコアボードを眺め満足そうな表情。夏まで野球部がプレーしていた深浦星那さんは「設計から携わったのでとても達成感がある。後輩には新しいスコアボードの下で練習に励み、甲子園に出場してほしい」とエールを送った。

(佐藤和輝)